

平成11年 7 月 13 日
原子力安全対策課
(1 1 - 5 8)
<02時00分資料配付>

敦賀発電所 2 号機の原子炉手動停止について (漏えい箇所の点検調査状況)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所 2 号機（加圧水型軽水炉；定格出力 116.0 万 kW）は、定格出力運転中のところ、7 月 12 日午前 6 時 05 分、原子炉格納容器内の C、D ループ室前通路の火災報知器が発報するとともに、格納容器内サンプル水位上昇率高警報の発信、1 次冷却水充てん流量の増加や格納容器内じんあいモニタ等の上昇が確認されたことから、格納容器内で 1 次冷却水が漏洩しているものと判断し、午前 6 時 24 分から手動で出力を降下、午前 6 時 48 分電気出力 8.1 万 kW で原子炉を緊急手動停止した。

なお、本事象に伴う周辺環境への放射能の影響はない。

漏えい状況調査として、18 時 45 分から格納容器内の立入調査を行った結果、C ループ室通路側に設置された化学体積制御系再生熱交換器 1 台（全 3 台）の抽出側配管部で漏えいが確認された。このため、抽出系統配管の隔離操作（弁の閉止操作）を 20 時 16 分に完了し、20 時 29 分漏えい停止を確認した。

また、格納容器サンプルおよび床面に貯まっている漏えい水については、22 時 00 分より液体廃棄物処理系への移送作業を実施している。

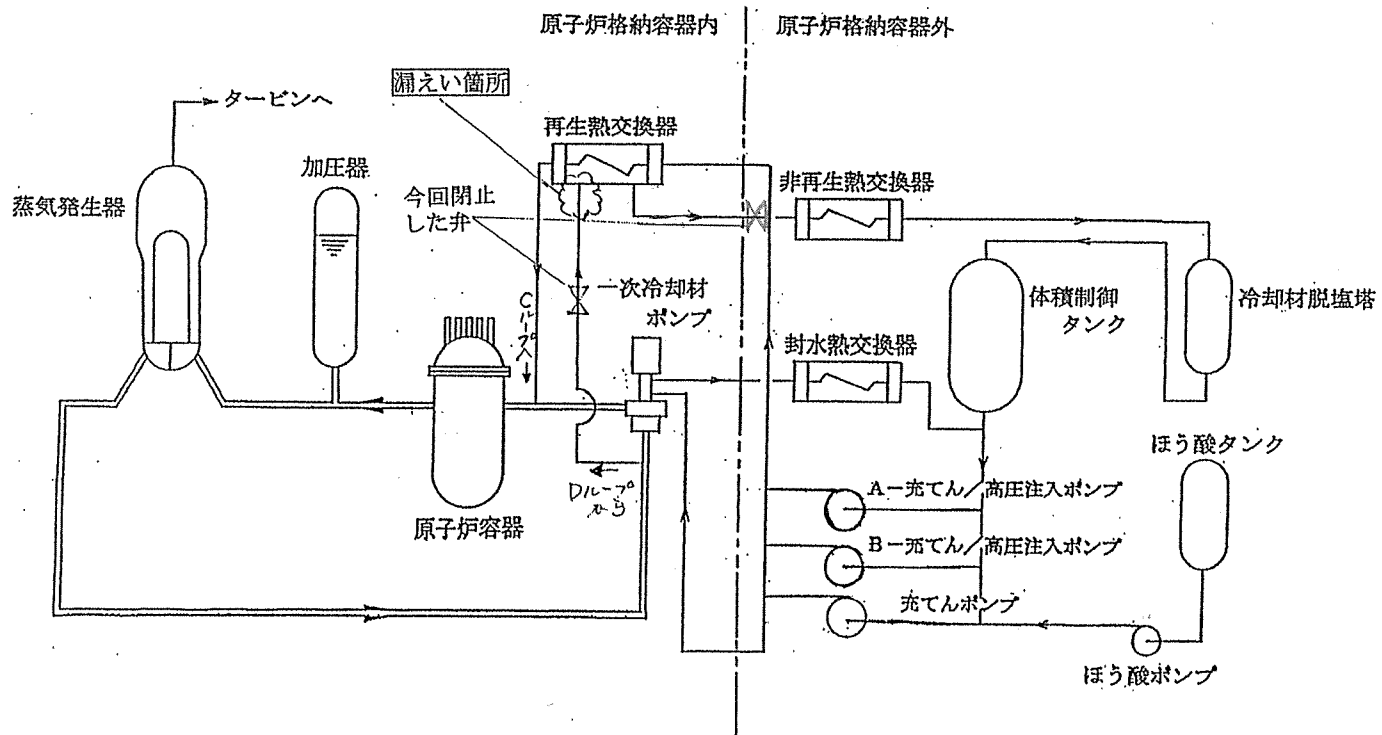
（平成 11 年 7 月 12 日 9 時 15 分、16 時 30 分、18 時 15 分、20 時 00 分、21 時 00 分 記者発表済）

その後、漏えいが確認された化学体積制御系再生熱交換器の抽出側配管部について保温材を取り外し、配管の外観目視点検を行った結果、長さ約 80 mm の割れが確認された。今後は、割れの詳細調査を実施する予定である。

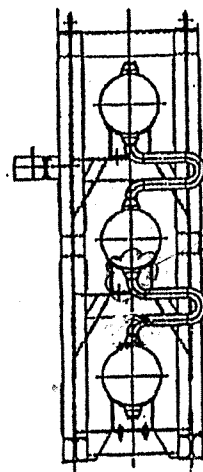
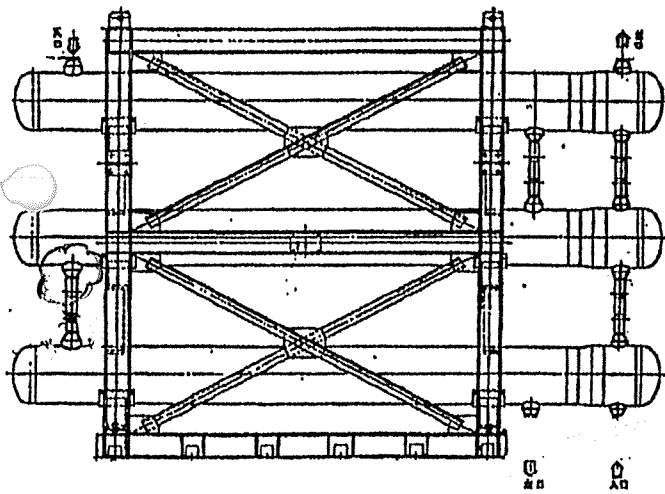
(通商産業省による I N E S の暫定評価尺度)

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
—	—	1	1

敦賀2号機化学体積制御系概要図



再生熱交換器漏えい箇所



漏えい箇所
(奥側からのスケッチ図)

再生熱交換器
(2段目) ↓

配管仕様
材質: SUS316
外径: 約 89mm
肉厚: 約 11mm

